

平成 28 年度 第 7 回 糸島市公共施設等総合管理計画検討委員会

議事録（要旨）

1 日 時 平成 28 年 10 月 19 日（水） 9 時 30 分～11 時 30 分

2 場 所 糸島市役所 本庁舎 3 階庁議室

3 出 欠

(1) 出席者

（委 員）谷口委員長、池添副委員長、藤井委員、今泉委員、柚木委員、石川委員、
小川委員、桑野委員

（事務局）洞総務部長、山崎企画監、久我係長、富村主査、西原主査
日本経済研究所 1 名、西日本シティ銀行 1 名

(2) 欠席者

（委 員）徳田委員

(3) 傍聴者 なし

4 会議結果

【会議次第】

1 開会

2 委員長挨拶

3 報告

- (1) 第 6 回糸島市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録について
- (2) 市民への広報等について

4 協議

- (1) 糸島市公共施設等総合管理計画（素案）について

5 その他 （次回第 8 回委員会は 1 月下旬から 2 月上旬を予定）

■報告内容についての意見交換等は以下のとおり

【（1）第 6 回糸島市公共施設等総合管理計画検討委員会議事録について】

特になし

【（2）市民への広報等について】

特になし

■協議内容についての意見交換は以下のとおり

【（1）糸島市公共施設等総合管理計画（素案）について】

・今後のスケジュール、計画書の概要版について

●A 委員

概要版については、全体像、ストーリーを見るという意味では良いかと思う。この概要版は、今後どのような場面で使うことになるのか。

●事務局

市民に説明していく場面で、170ページの計画全体を説明していく訳にはいかないので、概要版を活用していきたい。

・計画書 第1章～3章について

●D委員

P.2とP.169にある総合管理計画策定後の次年度以降のアクションプランは、総合管理計画に次いで作っていくことが定められているのか、それとも糸島市が自発的に作ることにしているのか。

●事務局

あくまで国から要請があっているのは、総合管理計画の策定をするよという要請であり、その内容については、類型毎の方針までで、個別施設をその後どうするかまでは当面求められていない。しかし、総合管理計画を策定しただけでは意味がないので、それを進めていくということで、市ではアクションプランの策定をするにしている。

●D委員

色々な自治体を回っていて、こういった計画を想定していないところもあるが、北九州市は、実行計画まででき上がっていて、施設毎に、例えば平成30年度までに統廃合するなどの個別の計画を細かく作っている。その計画を実行できれば、当初想定している目標に収まるように進められているという印象である。アクションプランを作るといのが、この計画の中で示されるのであれば、本気度が見えるので良いことだと思う。

●A委員

全国一律で国から要請があっているので、色々な対応があると思うが、きちんとしていくという姿勢は大事だと思う。

●B委員

1章から2章は、問題ないと思う。特に、地域実態マップ（地域別の配置状況）は良いと思う。3章については、いくつか気になるところがある。

更新のところは、全体としては特にないが、P.24のコスト縮減で、最初の「経営資源は限りがあることから、将来にわたり維持・管理、運営すべき公共建築物」となっている部分は、将来にわたり維持・管理していく公共建築物を判断するのが大事であって、それが前提のようになっているので、例えば「公共建築物を判断して、それらの公共建築物については、維持・管理を行っていく」というように変えた方が良いと思う。

それから、取組みの柱の最初の丸のところ、「維持・管理にIoT技術を導入するなどして」と書いてあり、新しく加えている部分と思うが、具体的にどのようにするのがよく分からない。用語解説は入ると思うが、例えばどういうふうにする、というように少し例を挙げたりするなど、単なるIoTの説明だけではなくて、それを管理・運営に活かすのは、どういうことがあるのかななどを補足で説明しないと分かりにくいと思う。

次に、具体的な目標のところのP.26、27だが、内容的には異論ないが、説明の内容は25%削減の根拠が2章で設定したものになるが、これを説明する想定がないので、更新費と維持・管理費の合計が48.1億円で、それを36.3億円にするためには25%削減しないといけないという簡単な表現があると思う。P.26、27の図については、

文章的には「なお」以下の2行で終わっているのですが、文章の中で説明しなくても良い。P. 27は枠囲みで説明するなりが良いが、比較した時に、25%という数字でやっていけるというか、維持・管理費も4億円削減するので、更新費の増加分がペイできるという話が分かりにくい。本文ではないので良いが、これを説明する文章がないと、25%削減の根拠がこのような感じに捉えられてしまう気がするので、説明が必要だと思う。

●A委員

ここが一番コアとなる部分となるので、分かりやすい表現が大事だと思う。

●事務局

ランニングコストを削減して、その分を投資的経費とする説明については、P. 27の上段の図表で、青い部分が投資的経費の20.5億円、緑色の斜めのラインが維持管理経費の削減見込分をいうことで、それが増えていくことで、赤いラインの各削減率に必要な更新費用と接するところが24.5億円ということで、ここで4億円積み上げるということは示しているが、説明文は必要と思う。参考という表現になるか分からないが、盛り込ませていただく。

●C委員

P. 1の最適化イメージについて、コストと量を下げても何故、質が維持できるのかと市民が思うのではないかと。そこで、マネジメントや適正規模の見極めや市民との協働などで、スケールを下げても質は最小限キープできるというように、どういう前提条件があれば質の維持がより可能になるかという説明があるとイメージしやすいと思う。

それから、以前のこの委員会で説明はあったかと思うが、財政見通しで、各歳入・歳出項目で増やしたものの、減らしたものもあると思う。脚注でも後ろでも良いが、どういう条件設定で、こういう見通しにしたかというのがあれば、より分かりやすいと思う。

あと、P. 26、27のところで、先程話にあったとおり、上段の図は横ばいになっていて、4億円増減が分かりにくいので説明があった方が良く思う。

P. 28のところは、ロジックとしては興味深い。人口から見て最適な施設量はいくらかということ、71%から79%の施設量というのは、裏返せば21%から29%減らせば良いというのがあれば良いと思う。

●F委員

P. 28のところで、面積と人口だけで表しているが、その当時の財政状況も追加すれば、お金との関連性も出て一般の人には分かりやすいのではないかと。

●事務局

P. 28の上段の説明だが、削減目標25%というのは非常に大きく実現可能かと心配を持つと思うが、平成7年、平成10年程度であれば、元に戻せば実現も見込めると考えられる。財政状況を入れることについても、当時の財政状況がどうだったのか検討してみたい。

●E委員

最適化とあるが、説明する時には縮小・縮減とあり、最適化とは何かと言った時に、圧縮していくというのが基本にあるので、最適化という言葉はきれい過ぎるイメージがある。市民向けには削減していかなければならず、厳しい状況にあるという話し方のほうが良いのではないかと。

●H委員

減らすといった時に不安に思うところを、少ない選択肢の中でも最適化ということは、今なら考えられるということではないか。最初に危機感のある数字が並べられている中で、糸島市に住めないのではないかと、自分の地域から公共施設がなくなるのではないかと、思っている人にとっては、まだまだ選択肢があるというのは、これで分かる。質を下げないようにしていこうという気持ちは伝わる。

●E委員

概要版も作成するのか。

●事務局

概要版と計画書を作成する。

●E委員

計画全体を読めば分かるが、概要版だけでどう思うだろうか。イラストみたいなイメージ図を活用すれば伝わりやすいのではないかと。

●事務局

具体的に複合化といっても複合化自体をイメージしづらいこともあるので、最終的な概要版はイメージやイラストを作って分かりやすくしていきたい。最適化については、その時々で意味合いが違ってくるものであって、例えば、人口が増えていくなかで施設が少ないのであれば増やす方向に捉えられることもあれば、人口が減っていくなかでは、実際は削減ということになると思う。

●E委員

市民向けにした場合、中身と違うのではないかとと思われるのではないかと。

●F委員

本委員会とは別に検討されている運動公園整備が1つのモデルケースになるのではないかと。その中では最適化という言葉は全然出てこない。今の市の状況にあったものを統廃合するという前提で、廃止するものは廃止し、新たに造るものは造って、新たな施設としてやっていくということで、最適という言葉は一切出てこない。最適という言葉に拘ってしまうと、受け取る人によって最適な状態が違うことがあるので、おかしな状況で理解されてしまう。

●G委員

今ある施設をそのまま維持するのは無理な状況が出てくるので、25%削減を1つの目標として挙げているが、そのことの説明をしながら、縮減・縮小・統廃合となってくると、市民の方は、夢のないような状況に陥ってくる感じがする。こういった状況を伝えながら、住民のサービスや活用している施設は大事にしつつ、そのような施設は維持・管理していくという説明が必要だと思う。厳しい現実も必要だが、必要なものについては、維持・管理をやっていくというものも必要であり、両方がいるのではないかと。

●B委員

今の議論は、最初の段階できちんと説明する必要があると思う。基本理念としては、質・量・コストの最適化というのは、これで良いのではないかと。一方、ビジョンのところ、公共施設のサービスや保有量を最適化と書くと少し厳しい。ビジョンは現状を踏まえて、取組みの考え方のP.23、24では量のコンパクト化やコストの削減と

というのは書かれているので、今後44年のビジョンとしては、量のコンパクト化、運営の効率化をして、コストを削減しながらも、質としては維持していくという文言に変えた方が良いのではないかと。量の縮減、コストの削減を踏まえたビジョンにした方が良いのではないかと。質・量・コストの最適化イメージのところの理念としては良いが、施設の量は最適化ではなく、量の削減とし、コストのところも削減とし、真ん中は最適なバランスで良いと思う。量とコストを削減して、質は維持するというのが、今の最適なバランスであれば、理解してもらえると。と思う。

・計画書 第4章について

●E委員

建てる時には、色々と補助金があるが、維持管理に対しても補助金はあるのか。

●事務局

人権センターなど、補助金がある施設も一部あるが、ほとんどの施設はない。

●E委員

コミュニティーセンターと児童クラブを一緒に使うという話があるが、休館日等が違うが、統廃合すると、ずっと開けておくことになるのか。

●事務局

想定としては、学校を活用した場合、入り口を1ヶ所で共にするのは、安全上の面で難しい。入り口を分けて、内部の職員などが出入りするところだけ共有していくことをイメージしている。

●E委員

運動公園は、説明会などを行っているが、今回の計画は、全部説明会をしていくのか。

●事務局

概要版の「市民等との情報共有とアクションプランの作成」のところでは少し触れているが、体育施設については、個別施設の方針の整理が先行している。全ての施設で説明が必要かというのはあるが、地域の方の利用に関係してくる施設については、アクションプランを作るまでに説明会を行う。また、地域毎の考え方の整理等について説明会を行っていく。

●E委員

説得力のあるものを持って説明をしないと、なかなか納得されないと思う。

●事務局

地元にとっては、全てが必要な施設だという意識が強いと思う。個別の計画ができた時点で、地域毎の説明はやっていくが、市民にもこのような意識へ変えてもらわないといけないと思う。総合管理計画ができれば、平成29年度、30年度の2ヵ年で、市民説明会を通じ、市民と意識を共有して、31年度以降、個別の地域に入って説明していくことを考えている。一気に進めても理解を得られないと思うので、時間はかかるかもしれないが、そういった形を考えている。

●E委員

総論はみんな分かっていると思うが、地元への説明は大変だと思う。

●H委員

書いてあるなかで、一番大事なのは、若い世代の参画だと思う。これまで地域や家を守ってきた人たちが敏感に反応すると思うが、今回に限っては若い世代の参画は必須。この先は厳しいということを若い人に伝えて、若い人の意見をどれだけ取り込んでいけるかということが大事だと思う。

●A委員

5章の話に入ってきているので、この後に議論してもらおうこととして、他に個別の施設について、ご意見はあるか。

●C委員

類型表と本文を見比べながら見ていたが、一見すると本文は分かりにくい。本文の冒頭に、方針概要等を持ってきた方が分かりやすいのではないか。

●B委員

学校教育系施設のところで、前回の委員会でも議論はあったが、統廃合が入っており、統廃合が入っているかどうかで、市民へのインパクトが違うと思う。先ほど、学校規模適正化検討委員会が設置される話があったが、このままで良いか。本文を読むと、これから見直すということで、決定していないというのが分かるが、先程あったように見出しを付けると統廃合と出てしまうが大丈夫だろうか。

●事務局

本文の内容については、教育委員会は承知済みである。本文の中で、そういった可能性があるということで、今後の取組方針に載せている。

●B委員

前回の委員会の議事録を見ると、委員の方から統廃合という話は出ているようである。

●事務局

再度確認するが、教育委員会として学校の統廃合は将来避けて通れない状況という考えは持っているようである。

●A委員

確認事項ということで良いか。

●事務局

再度確認する。(※確認結果、統廃合も含めた、今後検討が必要な主要な方針を併記。)

・計画書 第5章について

●A委員

先程の議論の続きで、決まったことを説明するという説明会もあれば、どのようにするかを決める説明会もあるが、どのように考えているか。

●事務局

市民の方に理解してもらう点でいうと、想定としては、できる限り早い段階から市の方針を複数パターン提示し、地域に合った形はどういった方向になるかを検討していくことを考えている。決定した後の説明では、なかなか進んでいかないのではないかと考えている。

●E委員

どうでしょうかという投げかけでは收拾がつかないと思う。市としては、ある程度決定している気持ちを持ちながら、説明会に望んだ方が良いと思う。

●事務局

どの段階で説明するかにもよるかと思う。最終的に行き着くゴールはこれですという示し方になると思うが、そこに至るまでの方法や手法を検討してもらう作業は必要。

●E委員

今回の説明は、志摩地区や二丈地区のように、対象は地区単位になるのか。

●事務局

具体的には決めていないが、今回作成する総合管理計画の説明会を行った後に、アクションプラン作成のための意見の取り纏めを行うことを考えている。

●E委員

統廃合になると、1つの校区の話ではないので、全体で説明会をすることを考えているのかと感じた。

●事務局

施設の類型や、何を考えていくかによって変わってくると思う。

●H委員

44年先に整ったものとするために、市も財政状況等を含め考えているということ、若い人が知らないと話にもならない。若い人にどうしたら伝えられるか。そこを知ると知らないとは結果が違ってくる。今考えたことを40年間大事に育てていくのが若い人になるので、着地点が分かっていたら、重いものも持てるのではないか。

●E委員

広報誌で周知するというが、一般市民は広報誌はあまり読まない。市長の挨拶や集会など色々な場で発信し続けた方が良いのではないか。

●H委員

これをやりましたということよりも、心を寄せていくということが結果に繋がっていくと思う。周知するよりも、口伝えで伝えていく方がきっちり伝わっていくということを感じている。

●E委員

紙で伝えるよりも、言葉の方が本気度は伝わる。

●A委員

従来やり方だけではなくて、そういった工夫も是非加えてほしい。

●事務局

行政の情報は、広報には載せないといけない。ただ、今言われたように、色々な機会を通じ、人口減少の時代に入って、人口構成も変わり、公共施設を25%減らさないと市も大変なことになるということ、口頭でも訴えていけるように、市長をトップとして情報提供をやっていきたい。

《協議終了。本日の委員会の意見及び個別に出される意見シートの内容を反映させて、パブリックコメントを実施することで、各委員了承。》

■その他についての意見交換は以下のとおり

【(1) 意見シートの提出について】

特になし

【(2) 次回委員会の検討内容（予定）について】

今後、市の内部会議でパブリックコメントの最終案を決定し、12月にパブリックコメントを実施する。そこで出た意見を計画書に反映し、次回委員会で協議したい。

次回委員会は1月下旬から2月上旬を予定している。

●B委員

基本理念とビジョンをどうするかについては、今回議論になったので、結果だけでもパブリックコメント決定前に、各委員に連絡してほしい。

●事務局

了解した。

以上